



令和7年度 沖縄文化芸術の創造発信支援事業
支援事業事例集

OKINAWA ARTS COUNCIL

2025 » 2026



令和7年度 沖縄文化芸術の創造発信支援事業
支援事業事例集

**OKINAWA
ARTS
COUNCIL**
2025 » 2026

令和7年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業
支援事業事例集

目次

- P.03 ごあいさつ
- P.04 沖縄アーツカウンシルとは？
- P.06 令和7年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 公募について
- P.08 令和7年度採択事業者の活動拠点
- P.09 採択事業者の活動と他分野とのつながり
- P.10 支援事業のご紹介【団体】
- P.24 シマの文化 語やびら～活動をふりかえる～
沖縄芝居研究会
- P.25 シマの文化 語やびら～活動をふりかえる～
公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館附属ひめゆり平和研究所
- P.26 支援事業のご紹介【スタートアップ】
- P.33 シマの文化 語やびら～活動をふりかえる～
With Art うらそえを考える会
- P.34 支援事業のご紹介【個人事業主】
- P.38 シマの文化 語やびら～活動をふりかえる～
SOUVENIR 宮城いつか
- P.39 令和7年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
「ぶんかとほじょきんそうだん会」
令和7年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 採択件数・補助金額
- P.40 令和7年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
担い手育成プログラム
「めぐるプロジェクト」
「インティマシーシーンから考え合うレクチャー＆ワークショップ」
- P.43 令和7年度沖縄アーツカウンシルの取り組み
文化芸術人材バンク事業
ウェブサイト「沖縄県文化芸術名鑑」
トークイベント「YUNTAKU」フォーラム
- P.44 編集後記



ごあいさつ

はいさい くすーよー ちゅーうがなびら

(公財) 沖縄県文化芸術振興会では、文化芸術に関わる県内の団体および個人を支援することにより、本県の多様で豊かな文化芸術活動の持続的な発展を図ることを目的に、沖縄県からの委託を受け、沖縄文化芸術の創造発信支援事業を実施しています。

本事業は、「文化芸術活動への支援」「人材育成」「情報発信」の3つのプログラムを柱として展開しており、本冊子では令和7年度の実施状況と成果をとりまとめております。

「文化芸術活動への支援」では、22件の事業を採択し、文化芸術の現場経験や専門性を持つプログラムオフィサーが伴走し、活動を支援してまいりました。各現場においては、新たな表現の創出や分野横断的な実践、文化芸術と他領域との連携など、多様な挑戦の萌芽が生まれました。文化芸術の可能性を広げる意欲的な取り組みが県内各地で展開され、地域社会に新たな対話と価値が創出されたことは、大きな意義を有するものと受け止めております。

担い手育成プログラム「めぐるプロジェクト」では、参加者が自身の創作の原点を見つめ直し、表現の根源を探究する機会として、全4回のプログラムを実施いたしました。さらに、「誰もが尊重される創作環境」をテーマとしたレクチャー&ワークショップ企画も実施し、創作環境整備に向けた意識の醸成を図りました。今後も、文化芸術の担い手同士の活動基盤の構築に向けた取り組みを進めてまいります。

ウェブサイト「沖縄県文化芸術名鑑」では、県内アーティストや文化施設等の情報発信に加え、これまでの沖縄の文化芸術の歩みを紹介する観点から、アーカイブや芸能に携わる3組の方々のインタビューを掲載いたしました。周知広報を兼ねたイベント「YUNTAKUフォーラム」では、次世代が取り組む伝統のかたちをテーマに、継承に向けた課題や可能性を共有するとともに、今後の展望についても議論を深める契機となりました。

文化芸術は、人々の創造性を育み、社会に対話と包摂をもたらし、土地の魅力と誇りを形成する基盤です。本冊子が、本県に息づく創造の営みを広く共有し、さらなる発展へとつながる一助となれば幸いです。

なお、当財団は、令和8年度より沖縄県立博物館・美術館(愛称:おきみゅー)の指定管理者として運営を担うこととなります。今後は、本事業で培った成果を礎としながら、おきみゅーとも有機的に連携し、より一層多様な側面から本県の文化芸術振興に寄与してまいります。

結びに、本支援事業の実施にあたりご協力を賜りました関係者の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます、ご挨拶といたします。



公益財団法人 沖縄県文化芸術振興会
理事長 下地 誠



沖縄アーツカウンシルとは？

沖縄の多様な文化芸術活動の持続的発展を図るため、補助金公募や担い手育成プログラムの実施、相談窓口の開設など、幅広い分野を対象に多角的な支援を行います。

沖縄は古来、アジア諸国との交易を通じて多様な文化芸術を受け入れ、沖縄の精神的、文化的風土と融合させることで、亜熱帯の海に囲まれた美しい島々に、独特の文化芸術を育んできた。文化芸術は、県民の生活に深く根ざし、繰り返された世変わりにおいても、新たな時代を切り開く心のよりどころとなった。文化芸術は、長い歴史の過程で積み上げられ、伝えられた英知の結晶であり、人々が心豊かに生き、活力のある社会を築き、世界と友好を深めていく基盤として、本県の発展に欠かせないものである。このような認識に立ち、私たちは、かつて琉球の時代に人と文化の架け橋となった先人の万国津梁(しんりょう)の精神を受け継ぎながら、守り育ててきた文化芸術を次代に引き継ぐとともに、これからの時代にふさわしい新たな文化芸術を創造していくことを決意し、この条例を制定する。

(沖縄県文化芸術振興条例 前文より)

こうした認識に立ち、公益財団法人沖縄県文化芸術振興会では沖縄県からの委託を受け、沖縄版アーツカウンシル機能を導入した「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」に取り組むことで、県内の文化芸術団体等へのさまざまな支援を行っています。

沿革

平成5(1993)年度
財団法人沖縄県文化振興会設立

平成23(2011)年度
公益財団法人沖縄県文化振興会へ名称変更。
沖縄県の組織改革により文化観光スポーツ部が創設される。

平成24(2012)年度
～平成28年(2016)年度
文化振興の主要事業として、一括交付金を活用した「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」を実施。

平成29(2017)年度
～令和3(2021)年度
「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」を実施。

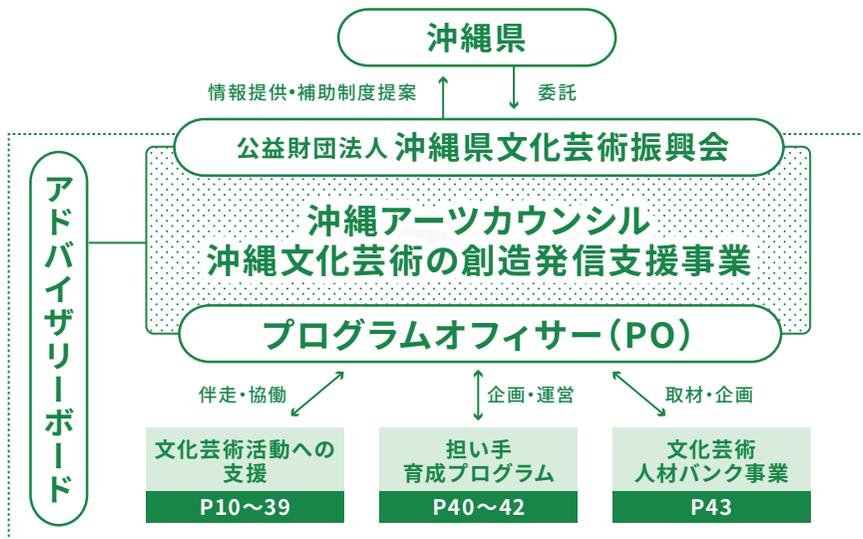
令和4(2022)年度～
「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」を開始。令和8(2026)年度までの継続を予定している。

令和7(2025)年度
「公益財団法人沖縄県文化芸術振興会」へ名称変更。

関連する条例・施策



沖縄県文化芸術振興条例





メンバー紹介

アドバイザーボード(AB)

アドバイザーボード(AB)は、沖縄県内外の文化芸術分野における専門家等で構成され、事業の選定及び評価・検証、アーツカウンシル機能全般への助言を担います。

八重山郷土史家
大田 静男 Ota Shizuo

南城美術館館長 / 沖縄県立芸術大学客員教授
金 恵信 Kim Hyeshin

那覇文化芸術劇場なはーと 企画制作グループ統括
林 立騎 Hayashi Tatsuki

プロジェクト・コーディネーター / 立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授
若林 朋子 Wakabayashi Tomoko

プログラムオフィサー(PO)

プログラムオフィサー(PO)は、採択事業へのハンズオン支援をはじめ、文化芸術に関する相談対応、県内の文化芸術の活動状況を踏まえた補助制度の構築を行います。

チーフプログラムオフィサー
上地 里佳 Uechi Rika

宮古島市出身。大学院でアートプロジェクトの現場に携わったことを機に、2013年東京アートポイント計画「三宅島大学」で、2014年より富山県氷見市を拠点とするアートNPOヒミングで活動。2016年からはアーツカウンシル東京にて、東京アートポイント計画、Tokyo Art Research Labを担当し、2021年より現職。

具志 幸大 Gushi Yukihiko

那覇市出身。琉球舞踊、琉球古典音楽実演家。沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科修了。2001～2002年世田谷パブリックシアター&佐敷町シュガーホール共同製作「音楽劇ふたこの星」出演。2006年、2021年、2025年に舞踊リサイタル開催。2008年古典音楽と創作曲による演奏会開催。12年間にわたり県内の高校生に琉球芸能を指導。2022年より現職。2024年10月より沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻非常勤講師。

小川 恵祐 Ogawa Keisuke

山形県出身。沖縄県立芸術大学大学院修了。2017～2022年南城市文化センターシュガーホールにて音楽公演の企画制作や教育事業を担当し、2022年より現職。並行してフリーランスの舞台芸術制作者として、琉球芸能や現代音楽、現代演劇、コンテンポラリーダンス等のプロジェクトに取り組んできた。

橋口 知佳子 Hashiguchi Chikako

栃木県出身。大学で建築・まちづくりを学んだのち、大学院で文化施設での文化芸術活動に関する研究を行った経験から、全国の劇場・ホール施設の計画・設計のコンサルティングを行う会社に就職。3年間従事した後沖縄に移住し、2022年より現職。

喜舎場 梓 Kishaba Azusa

那覇市出身。沖縄県立芸術大学デザイン専攻卒業後、沖縄県内の民間劇団にて、16年間、舞台制作・芸能マネージャーとして従事。地域課題の解決・緩和に向けた演劇ワークショッププログラムを開発するなど、ワークショップコーディネーターとしても活動している。2023年より現職。

国永 美智子 Kuninaga Michiko

石垣市出身。台湾の大学院修士課程で八重山と台湾の関係について研究したほか、与那国町久部良小学校と台湾の小学校との児童宿泊交流で通訳兼コーディネートを担当。日本の大手新聞社台北支局での助手や、石垣市文化財課の発掘作業調査員や営業職に従事。共編著に『石垣島で台湾を歩く』（沖縄タイムス社/2012年）。2021年より沖縄県文化振興会で文化観光戦略推進事業、文化資源を活用した沖縄観光の魅力アップ支援事業を担当。2024年より現職。

担当文化専門員
奥間 恵 Okuma Megumi

宜野湾市出身。沖縄県内の飲食チェーンで20数年企画・開発の業務に携わり、主に商品開発を担当。その後ショッピングセンターのカスタマーサポート業務、航空会社のサービス及びオフィスワークに携わり、2024年より現職。



令和7年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 公募について

「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」では、文化芸術に関する事業を行う県内の団体や個人事業主を対象に、3つの区分で公募を実施し、採択された事業を支援しています。

補助対象/補助上限額

	条件		条件		条件
団体	県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う団体	スタートアップ <small>※「団体設立から5年未満」または「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業の採択実績がない」団体</small>	県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う団体	個人事業主	県内に主たる事業所を有し、文化芸術事業を行う個人事業主
	補助金額		補助金額		補助金額
	上限500万円		上限100万円		上限100万円
	補助率		補助率		補助率
	1年目=90% 2年目=80% 3年目=70%		1年目=90% 2年目=80% 3年目=70%		90% <small>※個人事業主の補助回数は1回限り</small>

事業区分

区分1 文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取り組み

- ・文化芸術活動の継続や強化に向けて、事務局体制の向上や基盤強化を図る取り組み
- ・文化芸術活動を支える担い手等の育成・継承に関する取り組み
- ・個人事業主による文化芸術活動の継続や強化に向けた自己研鑽に係る取り組み
- ・オンライン配信や映像制作のスキルアップのための取り組み など

区分2 文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取り組み

- ・認知度の向上やリピーター獲得に向けた体系的な計画を有する取り組み
- ・創作人材の育成に係る魅力ある創造発信を伴う取り組み
- ・アーティストの交流等を促進する取り組み
- ・一過性のイベントではなく、新規性が見られるライブや上映会、公演、展覧会 など

区分3 文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取り組み

- ・県内の民間事業所(観光、まちづくり、産業等関連分野)や教育機関(各種学校、図書館、博物館、公民館等)と連携して行う取り組み
- ・共生社会実現に向けて関係機関(福祉、国際交流等関連分野)と連携して行う取り組み など

令和7年度公募期間

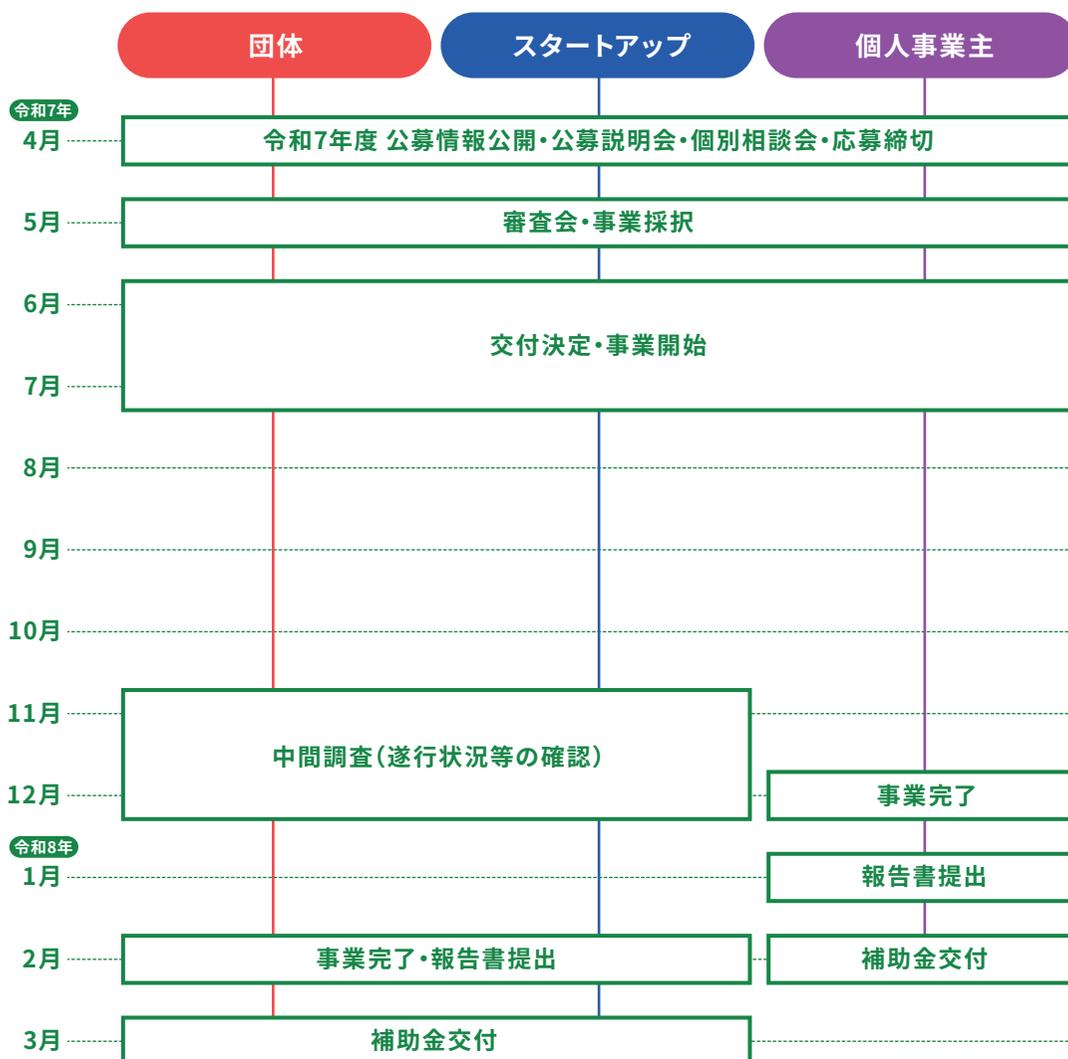
団体/スタートアップ/個人事業主

相談期間 3月17日(月)～4月11日(金)

受付期間 4月15日(火)～4月21日(月)

応募数 団体 31件 / スタートアップ 8件 / 個人事業主 7件

令和7年度スケジュール





令和7年度採択事業者の活動拠点

● P.21 11 / 2.24 音楽祭実行委員会

宜野湾市

● P.15 05 / ^{うちなー}沖縄ファミリーヒストリープロジェクト実行委員会

浦添市

● P.29 16 / 沖縄セメント瓦文化会

浦添市

● P.31 18 / With Art うらそえを考える会

浦添市

● P.11 01 / 琉球器楽の会

那覇市

● P.12 02 / H&D 合同会社

那覇市

● P.13 03 / 株式会社 RedPro

那覇市

● P.17 07 / 一般社団法人 楽友協会おきなわ

那覇市

● P.19 09 / やんばる珍道中実行委員会

那覇市

● P.22 12 / 一般社団法人 琉球フィルハーモニック

那覇市

● P.27 14 / 一般社団法人 ^{りゅうきゅうかりょうびんが}琉球迦陵頻伽

那覇市

● P.30 17 / カラフルコーラスOKINAWA

那覇市

● P.32 19 / あなたの沖縄

那覇市

● P.18 08 / 公益財団法人

沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館付属ひめゆり平和研究所

糸満市

● 団体

● スタートアップ

● 個人事業主

● P.36 21 / SOUVENIR 宮城いつか

東村

● P.23 13 / NPO法人 COUSA

名護市

● P.16 06 / Maeda Lacquer Project
(漆工房・前田貝揃案)

南城市

● P.20 10 / 株式会社 シネマ沖縄

南風原町

● P.14 04 / 沖縄芝居研究会

豊見城市

● P.28 15 / ONEVEX production.

糸満市

● P.37 22 / NSSB 川門義人

糸満市

● P.35 20 / 琉球COLLECTION 叶 萬矢叶子

宮古島市

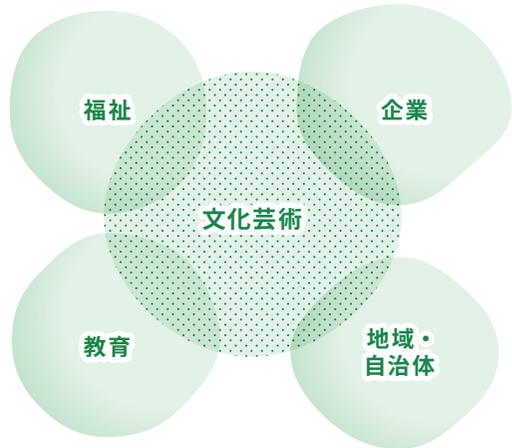


採択事業者の活動と他分野とのつながり

領域横断的な取り組みが、新たな出会いや可能性をひらく。

本事例集では、2025年度に採択・支援した22事業の取り組みを紹介します。採択事業者の活動分野や取り組みは多岐にわたり、文化芸術にとどまらず、例えば教育や社会福祉、国際交流、観光など、他領域が持つ課題や可能性に着目し、連携することで、新たな出会いや気づきが生まれています。

各事業者の紹介ページでは、活動内容をアイコンで表現し、活動や役割の多様性を可視化することを試みました。本事例集を通じて、皆さまの活動との重なりや親和性のある要素が見つかることを期待しています。



活動分野



取り組み



各事業者の紹介ページでは、活動分野と取り組みがアイコンで表記されています。



- P.11 01 / 琉球器楽の会
- P.12 02 / H&D 合同会社
- P.13 03 / 株式会社 RedPro
- P.14 04 / 沖縄芝居研究会
- P.15 05 / ^{うちなー}沖縄ファミリーヒストリープロジェクト実行委員会
- P.16 06 / Maeda Lacquer Project (漆工房・前田貝揃案)
- P.17 07 / 一般社団法人 楽友協会おきなわ
- P.18 08 / 公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館附属ひめゆり平和研究所
- P.19 09 / やんばる珍道中実行委員会
- P.20 10 / 株式会社 シネマ沖縄
- P.21 11 / 2.24音楽祭実行委員会
- P.22 12 / 一般社団法人 琉球フィルハーモニック
- P.23 13 / NPO法人 COuSA

#01

琉球箏低十三絃(仮称)の 開発により、 3つの変革と創造を図る 取り組み

琉球器楽の会

伝統

芸能

研究

事業概要

歌三線が主の琉球音楽において、伴奏楽器である「箏」「笛」「胡弓」を軸にして、新たな表現の可能性を追及するため設立された本会。本事業では「箏」に主眼を置き、生田流箏曲の低音箏「十七絃」を参考にしながら、楽曲表現を豊かにする琉球音楽独自の「低音」の開発をめざした。

取組概要

①低音箏「琉球箏低十三絃(仮称)」の試作品製作

②琉球箏低十三絃(仮称)試作品製作発表・試演会

日程：2月11日

会場：那覇文化芸術劇場なはーと小スタジオ

〈第一部〉試作品発表会

登壇者：池間北斗(琉球箏曲家)、三島わかな(沖縄音楽史研究家)、

中井智弥(生田流箏曲家・二十五絃箏奏者・作曲家)、

中島卓(株式会社琴光堂)、又吉恭平(琉球芸能史研究家)

コーディネーター：入嵩西諭(琉球笛奏者)

〈第二部〉試演会



POコメント

琉球音楽の世界に新たな琴(楽器)が生まれました。「琉球箏」における「低十三絃」として低音域が広がっていきます。琉球音楽は「歌三線」による歌曲を中心に発展を遂げてきましたが、その裏方として4つの楽器がそれを支え続け、戦後には新たな一楽器が開発され普及・発展を遂げています。琉球器楽の会は、その裏方の楽器による器楽曲を創造する活動を展開していくなか、低音域の不足を痛感し、その開発に着手しました。楽器・音色の定着のためには、質の向上はもちろん、民衆の心に響くことが必須では…。この楽器の発展を確信しています。(具志)

#02

新たな時代に即した 持続的音楽活動支援の ための連続講座

H&D 合同会社



<https://www.handd-oka.com/>

音楽 メディア 育成

事業概要

サブスクリプションの普及や収益構造の変化、生成AIの進化など、音楽を生業とするアーティストや関係者には急速な業界構造の変化に対応できる力が求められている。本事業では、持続可能なキャリア形成の支援を目的に、制作やマーケティング、法務、海外展開等の講座を開講し、現代の音楽活動に不可欠な知識とスキルを体系的に学ぶ機会を創出をめざした。

取組概要

① Music Lane Open Lecture 2025 ～音楽業界の新しい実践知を学ぶ連続講座～

日程：全9回（9月9日、10月1日・9日・22日、
11月4日・18日、12月3日・22日、1月6日）

講師：山口哲一（Studio ENTRE 代表取締役／エンターテック・ユニバーシティ 代表）、
松島功（株式会社arne 代表／元Spotify Japan Artist & Label Marketing Manager）、
溝越貴弘（株式会社ピーエムエージェンシー 制作統括プロデューサー）、
脇田敬（株式会社LAB 代表取締役）、
Kaz Kuwamura（シンガーソングライター／プロデューサー）、
関根直樹（江戸川大学経営社会学科 教授／インアウトワークス合同会社）、
水口瑛介（アーティファクト法律事務所 代表）

会場：MECAL GARDEN（メカルガーデン）

*対面開催／オンライン受講あり



POコメント

沖縄から世界へ、自らの音楽を携えて打って出る。その可能性は確かに広がっているからこそ、道を切りひらくためには、表現の技術を磨くことに加えて、自身の現在地を知るための多角的な視点や知識を身につけ、実践を重ねていくことが求められます。第一線で活躍する講師のレクチャーは、参加者自身の活動を点検する機会となりました。変化の激しい時代のなかで、沖縄から生まれる音楽を多様な人へと届けるための土壌をつくるための取り組みです。この積み重ねが、次なる飛躍を生み出す基盤となることを期待しています。（上地）

#03

視覚障害と音楽教育の 課題解決に向けた プロジェクト

株式会社 RedPro



<https://redprookinawa.com/>

音楽 福祉 育成

事業概要

視覚障害者に対する音楽の指導法や点字楽譜の読み方を学ぶ機会が乏しく、指導を受け入れられる沖縄県内の人材が不足している状況の改善を試みた。アンケートによる実態調査を踏まえて諸課題の把握・整理を行い、盲学校や専門家との連携を図りながら、音楽指導者育成のための実践的な研修プログラムの開発に取り組んだ。

取組概要

①課題の把握と整理

視覚障害者対象アンケート調査・集計
音楽指導者対象アンケート調査・集計
成果発表会来場者対象アンケート調査・集計

②音楽指導者対象の研修プログラムの開発

参加者：読谷山こずえ、上原玲子
アドバイザー：中本与一、中本牧子、照屋尚子、荒田力

③筑波大学附属視覚特別支援学校の視察

日程：10月22日・23日・24日

④「当事者モデルと学ぶ視覚障害のある方への音楽指導ワークショップ」の実施

日程：1月25日（講師による座学）、
2月1日（視覚障害当事者を対象とした楽譜の指導法）、
2月8日（アンサンブルレッスン、発表会）

講師：読谷山こずえ、上原玲子
会場：沖縄県立沖縄盲学校 音楽室



POコメント

視覚障害を持つ声楽家・読谷山こずえさんやアドバイザーと密に連携し、沖縄県視覚障害者福祉協会や沖縄盲学校の協力を得ながら、丁寧にコミュニケーションを重ねて取り組まれる姿がとても印象的でした。ワークショップの内容は、アンケート結果を踏まえて、希望する楽器を自由に選べる仕組みや、会場アクセスの負担に配慮した回数設定など、参加者モデルとなる視覚障害当事者の声を反映しながら検討されました。音楽指導者と視覚障害当事者が「点字楽譜」を介して共に音楽を楽しむ可能性を広げ、継続的な情報交換につながるネットワークづくりの契機となる事業でした。（橋口）

#04

沖縄芝居における 大道具製作の技能伝承

沖縄芝居研究会



<https://www.facebook.com/okinawashibaikenkyukai/>

伝統

芸能

研究

事業概要

沖縄芝居の大道具（舞台セット）製作技術の継承を目指し、第一人者である新城喜一氏・榮徳氏との実践を重ねてきた。今年度は、実際の公演を想定した大道具の運搬や組み立ての工夫、円滑な舞台転換の研究・検証を行った。これにより培った技術を活かし、舞台機構が芝居向きでない会場でも公演することで、沖縄芝居が多様な場所で実施できることをめざした。

取組概要

①折畳式パネル及び背景幕の研究

日 程：10月26日
講 師：新城喜一
会 場：那覇市若狭公民館

②大道具の転換研究

日 程：8月10日、10月5日、11月2日
会 場：国立劇場おきなわ 小劇場

③芝居公演での研究成果の実践

日 程：11月24日
会 場：我部祖河公民館（名護市）
出 演 者：伊良波さゆき、知念亜希、金城真次、米盛未来、奥平由依、伊波瑠依、仲嶺夕理彩、高井賢太郎、堀川裕貴、仲宗根朝子、廣山ひさき、金城横人、高宮城実人、伊禮門綾、廣山えりか、玉城匠
地 謡：新垣俊道、波平宇宙、町田倫士
上演作品：時代舞踊劇「仲里節の由来記」作・伊良波尹吉
時代明朗歌劇「夫振岩」作・板良敷朝賢



POコメント

沖縄芸能において最も大規模とも言える沖縄芝居公演を数多く実施している本会。その上演に欠かせない大道具は、技術の継承等におけるさまざまな課題があり、本事業においては、「技術の継承」「資料の整理」「活用の方法」などが3年間にわたり実施されました。大規模な劇場での大がかりな場面転換が必要な一方、今回の事業では地域の公民館といった小規模な舞台での上演の研究や、転換時間の短縮に向けた研究など画期的な取り組みが展開されました。沖縄芝居は課題に向き合いながらも息づいています。多くの皆さまに劇場へ足を運んでいただき、沖縄芝居研究会を支えていただきたいと思います。（具志）

#05

うちなー 沖縄ファミリー ヒストリープロジェクト

うちなー
沖縄ファミリーヒストリー
プロジェクト実行委員会



https://instagram.com/wyua_okinawa/



事業概要

沖縄から移民した世界のウチナンチュの歴史や文化、生活史的背景を学ぶ機会を創出することで、沖縄における文化の重要性を県内で啓発し、国際理解・異文化理解につなげることをめざし取り組んだ。昨年度に作成したワークショップのモニター実施や内容のブラッシュアップを行うとともに、多言語対応を視野に入れた教材設計を行った。

取組概要

①ワークショップのモニター実施・内容のブラッシュアップ

〈豊崎中学校 | ハワイ編〉

日 程：10月6日

参加者数：中学2年生 約120名

〈沖縄大学 | ブラジル編〉

日 程：11月6日

参加者数：大学4年生 9名

〈関東学院大学(神奈川県横浜市) | ブラジル編〉

日 程：12月11日

参加者数：大学3・4年生 13名

〈八重山商工高等学校 | ハワイ編〉

日 程：1月8日

参加人数：商業科観光コース1年生 18名

〈八重山平和祈念館 | ハワイ編・八重山編〉

日 程：1月10日

参加人数：一般9名

②ワークショップの教材化(多言語化に向けた準備)

ワークショップで使用する教材の文言、写真等のまとめ

ファシリテーター用のシナリオ・補足資料の作成

③パンフレット・説明資料などの作成

上：ハワイ編ワークショップの様子
下：ブラジル編ワークショップの様子



POコメント

このプロジェクトには「移民史を自分事として学んでもらうには？」という問いがありました。そこで、社会的背景(日本史・沖縄史)と個人史(家族史)を行き来するカード形式の教材が生まれました。ハワイや南米へ移民した家族やその子孫の暮らしは、自分との違いや共通点に自然と興味を抱かせます。今回はさらに「八重山の移民」を加え、その地域ならではの移民史に焦点を当てたワークショップが試みられ、展開に広がりが見られたように思います。今後の活用と発展に期待したいです。(国永)

#06

琉球漆器螺鈿伝統技術を 若者に広げるための 「Gateway作品」試作事業

Maeda Lacquer Project
(漆工房・前田貝揃案)



<https://www.instagram.com/maedalacquerproject/>

伝 統

工 芸

交 流

事業概要

琉球漆器の伝統技術を継承し、現代の生活様式や価値観、ニーズに対応する新たな琉球漆器のあり方を提案する本事業。他業種との連携や新技術を開発し、「Gateway(入口)作品」を製作した。昨年度の活動を発展させ、サテライト事業やワークショップ、フィールドワークの実施をとおして更なる周知・普及を図り、ネットワークの拡大をめざした。

取組概要

①若者文化と連動した試作品製作

「琉球漆螺鈿柄×ゴス文化」かりゆしウェア・アクセサリ・食器の製作
「ストリート文化との連動」伝統模様×革細工・tattoo模様など
「美術作品との連動」漆×プラスチックなど美術作品の製作

②サテライトイベントの展開

「GATEWAY Discussion:「演劇」と「アート」フレームを超えて
Okinawan Theater X Okinawan ART」
日 程:10月11日 会 場:アトリエ銘苅ベース
出 演:当山彰一(アトリエ銘苅ベース)・前田比呂也(Maeda Lacquer Project)

美術展覧会「自分の感受性くらい」&アーティストトーク
日 程:11月8日~16日 会 場:キャンプ・タルガニー
(アーティストトーク)渡慶次賀立(Backbone WOOD CRAFT)・
前田彬・前田比呂也(Maeda Lacquer Project)

③フィールドワーク

リサーチ・連携先:社会福祉法人若竹福祉会・Agre'able(ワインショップ)・
Photobooks on the Road(書店)

④事業報告展覧会

「GATEWAY: Mad Tea Party」
日 程:12月16日~21日 会 場:沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリー 1・2・3
(アーティストトーク)日 程:12月20日・21日



POコメント

漆工芸の新たな魅力発見と発展をめざし、幅広いジャンルのアーティストとコラボした展覧会が開催されました。2年目となる今回は、ゴスカルチャーの服飾デザイナーや、タトゥー彫り師、店舗内装職人、フィギュア造形作家などが参加。技術と漆の出会いが、思いもよらない発見や発明、表現を生み出しました。漆の魅力に触れる「Gateway(入口)」として企画された展覧会ですが、漆の持つ歴史やアイデンティティが、作品に深みと誇りを、そして新たな転機=「Gateway(出口)」をもたらしています。創作意欲と勢いは増すばかりです。(喜舎場)

#07

音楽×演劇ワークショップ プログラム開発と ファシリテーター体験

一般社団法人
楽友協会おきなわ



<https://gakuyukyukaiokinawa.jimdosite.com>

音楽 演劇 開発

事業概要

“聞く・演奏する”中心の音楽活動では届かない層へのアプローチを深めるため、身体表現や対話を活かした演劇的手法を取り入れ、教育や福祉現場において実践性の高い新たなワークショッププログラムの開発に取り組んだ。実績ある劇団との協働を通じて、両者のノウハウの共有や若手ファシリテーターの育成にもつなげた。

取組概要

①「ファシリテーターってなに？」

音楽ワークショップ・演劇ワークショップ体験会

日程：10月5日・13日

会場：浦添市市民協働・男女共同参画ハーモニーセンター、
銘苅小学校 地域連携室

参加者：音楽・演劇関係者、沖縄県立芸術大学の学生・教員、福祉関係者など

②コミュニケーションアートプログラム制作

日程：11月26日、12月10日・14日、1月6日

会場：那覇文化芸術劇場なはーと 練習室、
浦添市市民協働・男女共同参画ハーモニーセンター 音楽室、
那覇市人材育成支援センターまーいまいNaha

参加者：一般社団法人楽友協会おきなわ、TEAM SPOT JUMBLE、
北崎幹大(作曲家)、沖縄県立芸術大学 学生2名・職員1名

③トライアルワークショップと検証

日程：1月9日

対象者：アメリジアンスクール・イン・オキナワの児童

会場：宜野湾市男女共同参画支援センターふくふく

外部有識者：長津結一郎、田野邦彦

上：アメリジアンスクールでのトライアルワークショップの様子
下：ワークショップ体験会の様子



POコメント

劇団・TEAM SPOT JUMBLEと協力し、音楽と演劇を掛け合わせた新たなワークショップの開発に取り組んだ本事業。メンバー自身が身体を動かし、声を出しながらアイデアを試し、丁寧に振り返りを重ねていく姿はとてもチャレンジングで、その試行錯誤の連続はまさに“実験”のようでした。また、体験会や開発の過程では、県立芸大の学生や職員など、新たな担い手のつながりが育まれていました。有識者からのフィードバックを受けて、制作されたワークショップにどのような深まりが生まれていくのか、これからの展開がとても楽しみです。(橋口)

#08

“ひめゆり”を伝える ワークショップ開発・実践 プロジェクト

公益財団法人 沖縄県女師・
一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館付属
ひめゆり平和研究所



<https://www.himeyuri.or.jp>

歴史

継承

発信

事業概要

沖縄戦やひめゆり学徒隊関連の歴史を伝える活動のなかで、離島地域における発信の重要性を踏まえ、本事業では石垣島にてひめゆりの沖縄戦と八重山出身のひめゆり学徒隊に焦点を当てた展示会を開催。八重山の手記や証言に基づく朗読ワークショップの開発と実施に取り組んだ。ひめゆりの戦争体験の記憶を声で伝える継承のひとつのかたちとなった。

取組概要

①戦後80年移動展「ひめゆりと八重山」

日程：8月1日～31日

会場：八重山平和祈念館 第2展示室

日程：12月20日～2月28日

会場：ひめゆり平和祈念資料館 第6展示室

〈オープニングセレモニー&ギャラリートーク〉

日程：8月1日

登壇者：普天間朝佳(ひめゆり平和祈念資料館 館長)

②ワークショップの開発と実施

日程：8月2日

会場：八重山平和祈念館 第2展示室

③図録の制作

④朗読ワークショップと朗読会の開催

「朗読ワークショップ」

日程：8月23日

会場：八重山平和祈念館 第2展示室

「朗読会」

日程：8月24日

会場：石垣市役所1階市民広場

上：朗読会の様子
下：朗読ワークショップで話し合う参加者たち



POコメント

戦争体験の記憶を声で伝えるため、ジャーナリズムの取材手法を取り入れた朗読ワークショップが行われました。専門家やその家族から話を聞き、展示資料で理解を深めました。「曾祖母はひめゆり学徒です」と語る三世代での参加や、アナウンサーを志す中高校生の姿もありました。大人と子どもを交えたチームに分かれ、手記を共に読み解き、世代を超えた学び合いが生まれていました。本番は、合唱団の「別れの歌」で始まり、臨場感のある朗読に、すすり泣く声が生まれるほどの深い記憶の体験となりました。(国永)

#09

希少生物保護の天敵 「無関心」をやっつける 絵本シリーズ創設のための 造形制作および調査

やんばる珍道中実行委員会



<https://www.instagram.com/chim.okinawa/>

絵本

教育

自然
保護

事業概要

守るべき沖縄の希少生物への無関心を関心に変えるため、ヤンバルクイナのチムの物語やワークショップなどを通じて希少種保護のための啓発活動を目的として設立された本会。今年度は、沖縄本島北部地域・やんばるに生息する希少生物を身近に感じ、「守りたい」という思いを育むための絵本シリーズの立ち上げを目的に、希少生物への理解を深めるリサーチや、自然素材を活かしたキャラクターの造形制作を行うとともに、自然保護への深い共感を育てるファン層の形成をめざしたシンポジウムを開催した。

取組概要

① 仲宗根浩氏によるデザインと人形制作

人形6体:ケナガネズミのギルー・ノグチゲラのマーくんとサーヤ・リュウキュウオオコノハズクのハカセ・ホントウアカヒゲのユイユイ・アカショウビンのピッピ(仮)・リュウキュウヤマガメのレイケイ

② やんばる特別調査ツアー

〈夏編〉
日 程:8月4日~5日
ツアーガイド:石井雄也(合同会社キノボリトカゲ) 場 所:辺野喜エリア
〈冬編〉
日 程:1月24日
ツアーガイド:石井雄也(合同会社キノボリトカゲ) 場 所:与那覇岳他

③ シンポジウム開催

日 程:2月26日
会 場:沖縄国際大学3号館3-202教室
登壇者:宮平貴子、仲宗根浩、太田紳、長嶺隆(特定非営利活動法人どうぶつたちの病院 沖縄 代表理事)、東竜一郎(株式会社南西環境研究所・マンガースバスターズ)、島袋 禮(辺土名高校 自然環境学科3年生)



POコメント

自分のなかにあった“無関心”が希少生物を脅かしているという内省から始まったプロジェクト。ノグチゲラの試作が完成した際には、足の指の種類が違うと専門家から指摘を受け、まだ学ぶべきことがあると気持ちを新たにする姿がありました。やんばるの森を歩き、希少生物の観察調査や勉強会を重ねるなかで、絵本シリーズのキャラクターが生まれていきました。ここから広がる物語とキャラクターたちが、人々の心にどのような変化をもたらすのか、とても楽しみです。(国永)

#10

琉球・沖縄の歴史文化を 学ぶ映像コンテンツの 社会実装と普及モデル 構築事業

株式会社 シネマ沖縄

歴史 教育 開発

事業概要

琉球・沖縄の歴史文化をテーマに、映像コンテンツを使用した新たな学習モデルの構築をめざした。カリキュラムの整備や有識者へのヒアリング、勉強会や実証実験、シンポジウムの開催などとおして学習プログラムの設計に取り組み、地域や教育機関と連携しながら、文化の創造的継承と活用方法を検討した。

取組概要

- ①学校現場との協働によるカリキュラムの整備・会議・勉強会
日 程：8月20日、9月17日、12月17日
会 場：南風原中学校
- ②地域・企業と連携したヒアリング・勉強会及び実証実験の実施
〈石垣島〉日 程：1月17日～19日 訪問先：石垣市内の小中学校
〈伊平屋島〉日 程：1月29日・30日 訪問先：伊平屋村内の小中学校
〈宮古島〉日 程：2月19日・20日 訪問先：宮古島市内の小中学校
- ③シンポジウム「琉球・沖縄を知る本と映像－歴史学習動画★おすすめ歴史本」
日 程：2月1日
進 行：崎原有希
登壇者：賀数仁然、山内治、真喜屋力
会 場：ジュンク堂書店 那覇店
- ④次作（映像コンテンツ第2弾以降）に向けた構想準備・資料作成
期 間：7月～2月
参加者：映像ディレクター、イラストレーター、
琉球沖縄歴史文化学習動画製作委員会



POコメント

「琉球・沖縄の通史が学べる映像教材をつくりたい」。教員で構成された沖縄県小中学校歴史教育研究会からの要望で、この事業は立ち上がりました。日本復帰後、学習指導要領の一律化により、郷土史の扱いが限定的になりました。地域史教育が十分に行われにくい状況が続き、大人でさえも語るができない現状にあります。地元歴史を知ることで地域への愛着や誇りにつながるのではないかと。教員とつくり手が一体となって議論が交わされています。現場の声が直接届く距離で検討されるからこそ、実用可能な教材がめざせるのかもしれませんが。（喜舎場）

#11

沖縄・アジア平和音楽祭2026 ～文化交流を通じた 国際共生を目指して～

2.24 音楽祭実行委員会



<https://linktr.ee/224musicfes>

音楽

対話

多様性
理解

事業概要

観光・教育分野や国際交流機関と連携し、沖縄の伝統音楽やポピュラー音楽を発信する「2.24音楽祭(沖縄・アジア平和音楽祭)」を開催した。基地問題をはじめとする地域の社会課題について学び合うリサーチツアーや、県内の若者とアーティスト等との交流会も企画し、音楽を通じて多様な人々が沖縄の「平和と自治」について対話する場の創出をめざした。

取組概要

①ニイニイオン音楽祭2026

日程:2月21日～23日

会場:パレットくもじ前広場UFURUFU、琉球新報本社1階ロビー(那覇市)

出演:古謝美佐子、RITTO、TORAUMA、MaveRick、808、oviik、HIDE 春、友利あゆ、石嶺小学校合唱団、折坂悠太、イ・ラン(韓国)+松丸梨、松永拓馬、荘子it、金剛山歌劇団、Owlgall、AKKANBABYS、紅茶フーナー、媛臍、海勢頭豊、あっごりら、春ねむり、永原真夏バンドセット、Moment Joon、HOA(韓国)、Teechi、KITOKA、HOME、MCウクダダとMCiknow、西由良、上間陽子、朝吹真理子、平良いずみ、仲村美涼、永井玲衣、玉城デニー(沖縄県知事)、川中だいじ(日本中学生新聞)、中村万里子(琉球新報)、木村司(朝日新聞)、PEACE MOMO(韓国)、株式会社さびら、白充弁護士、G-shelter黒澤、元山仁士郎

②沖縄戦と基地問題を知るツアー

日程:2月21日

会場:平和祈念公園(糸満市)、嘉数高台(宜野湾市)、
佐喜真美術館(宜野湾市)、辺野古二見の浜(名護市)

ガイド:野添侑麻(株式会社さびら)、元山仁士郎(2.24音楽祭実行委員会代表)

③沖縄の若者との交流会

日程:2月22日

会場:琉球新報社

司会:元山仁士郎



POコメント

「政治活動ではないか」という批判を受け、この音楽祭の意義について、あるいは沖縄アーツカウンシルのあり方について、担当POとしてずっと考え続けてきました。しかし、県内外のバンドやラッパーのライブを実際に目の当たりにすると、その音楽は聴く人を国籍や人種、性別やイデオロギーによって決して差別していないことが明らかでした。アドバイザーボードからの「政治や基地問題について対話する環境をつくる本事業は、公的補助としてこれ以上ふさわしいものはない」という言葉どおり、この音楽祭が民主主義の理想的モデルの一つであり続けることを願っています。(小川)

#12

障害の有無に関わらず 誰もが文化芸術を鑑賞できる 社会環境整備事業

一般社団法人
琉球フィルハーモニック



<https://ryukyuphil.org/>

音楽 福祉 調査

事業概要

文化芸術公演における「合理的配慮」の提供義務化や、バリアフリーへの期待の高まりを受けて、沖縄県内の主要ホールにおける実態調査・実地調査を行うとともに、さまざまな障害に対応できるスタッフの育成を目的とした研修会や実地研修(OJT)を実施。障害の有無や年齢にかかわらず、誰もが劇場で安心して鑑賞できる環境整備をめざした。

取組概要

- ① 沖縄県内主要ホールのバリアフリー状況調査(実地調査)
沖縄県内の公共ホール23施設を対象に調査(訪問・ヒアリング・アンケート)
調査結果を集計し、検証した
- ② バリアフリーに対応したスタッフ育成を目的とした研修会・実習の実施
「障害特性と合理的配慮の理解～「気づき」から始まる障害理解と支援～」
日程：9月26日
講師：比嘉展寿(琉球大学教職大学院 教授)
会場：アイム・ユニバース てだこホール 市民交流室(オンライン配信あり)
「障害者の文化芸術活動を推進する法制度について」
日程：10月2日
講師：谷本裕(沖縄県立芸術大学音楽学部 教授)
会場：アイム・ユニバース てだこホール 練習室1(オンライン配信あり)
「心で理解する合理的配慮～当事者家族の体験談から学ぶ、生きる対応力～」
日程：10月29日
講師：照屋尚子(おきなわふくしオンプズマン 運営委員長)
会場：アイム・ユニバース てだこホール 市民交流室(オンライン配信あり)
「現場で体感！実地研修 跳びはねてもいい音楽会での支援実習」
日程：11月2日
会場：西原町町民交流センター さわふじ未来ホール



POコメント

「障害者差別解消法」の改訂に伴い、「合理的配慮」の提供が義務付けられました。その定義はあいまいで、対応方法に困惑している実演団体・運営者も少なくありません。本事業では、県内の公共ホールの状況調査に加え、細かなヒアリングを行うことで、現場の課題や困りごとを掘り起こすことができました。代表の上原さんは「近い将来、対応に迫られる時がくる。情報を共有し、共に学び合える場をつくりたい」と話します。実演団体だけでなく、ホールと共に検討できる体制こそが、業界の意識を底上げすることにつながるのかもしれない。(喜舎場)

#13

【名護市中山区】 総合学習のプログラム デザインを活用した 伝統芸能と文化の継承

NPO 法人 COUSA



<https://cousa-npo.org/>

地域

教育

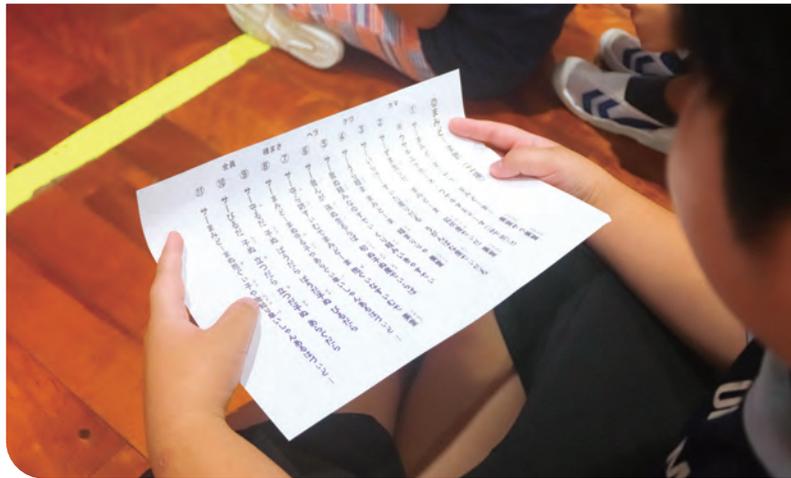
アイデンティティ

事業概要

生徒数の減少という課題に直面する名護市中山分校の総合学習の時間を軸に、地域で受け継がれてきた伝統芸能や営みについての理解を含め、発信につなげるための授業プログラムの設計に取り組んだ。地域と学校、非営利セクターと民間が連携・協働することで、地域文化の持続可能性を支えるモデルケースの確立をめざした。

取組概要

- ①名護市中山分校での地域連携授業プログラムの設計・実施
日 程：6月30日、9月13日、11月18日、12月18日、2月13日
講 師：木村房祥(株式会社沖縄どきどきツアーズ)、
田仲康成(中山区青年会会長)、
松本龍也(株式会社名護パイン園)、
池原奈織(むかしむかし店主)
会 場：ヤンバルンチャー名護店、中山分校、
百年古家 大家(うふやー)、むかしむかし
- ②「中山区豊年祭」記録映像の制作
撮 影 日：8月15日、8月25日、9月11日・21日・29日、10月1日
撮 影 場 所：中山区公民館
- ③記録映像上映会の実施
日 程：2月5日
会 場：中山区公民館



POコメント

生徒数の減少により存続の危機にある名護市中山分校。若い世帯の流出が進むことで地域の持続可能性が損なわれることを危惧し、中山区とNPO法人COUSAが協働して、地域に根差した総合学習の実施に取り組みました。授業では、中山区で受け継がれてきた豊年祭について地域の大人から学び、踊りを体験したほか、事業を営む大人たちを訪ねて話を聴く時間が設けられました。その土地に暮らす人々と直接言葉を交わしながら、地域の文化や営みに触れることが、地域が歩んできた歴史への関心を高め、ひいては郷土への親しみを育むことにつながるのだと実感した事業でした。(橋口)

Q 申請当時、どのような課題に直面していましたか？

A. 沖縄芝居では、当時の風景や街並みを描いた背景幕や、民家や場面を再現する大道具が欠かせません。しかし、そうした背景幕や大道具を製作できる専門家が、申請当時、民間では新城榮徳氏お一人となっており、後継者も育っていない状況でした。沖縄芝居を続けて発展させていくためには、その裏側を支える技術もまた継承されなければならない。その思いが、申請の背景にありました。

Q 申請したいと思ったきっかけは何ですか？

A. 技術が途絶えてしまうかもしれないという危機感のなかで、新城榮徳氏と、その兄である喜一氏から「いま直接学ばなければならない」と強く思ったことが大きなきっかけです。技術を継承するには、実際に手を動かしながら教わる時間と環境が必要です。背景幕や大道具の製作技術を指導いただくには、指導料や材料費、製作場所の確保など、多くの準備が必要です。沖縄アーツカウンシルであればその環境を整えられる規模の支援が期待できると感じ、申請を決めました。

Q 補助を受けることで、どのような取り組みが可能となりましたか？

A. 50年以上にわたり沖縄芝居の舞台美術を担ってこられた新城喜一氏・榮徳氏から、直接技術を学ぶ貴重な機会となりました。当初は技術指導を受けること自体が主な目的でしたが、事業を進めるなかで、新城喜一氏が保管していた直筆の大道具帳（舞台美術のデザイン図）を譲り受けることとなりました。資料として後世に残す必要性を感じ、美術専門業者に依頼してデータ化し、冊子として発行することができました。また、新城榮徳氏の作品についても記録を残すべきだと考

え、劇場を借りて背景幕を撮影するなど、体系的な資料化を行うことができました。沖縄アーツカウンシルからの支援は計4年間にわたりましたが、技術の継承と記録の整備を着実に進めるための土台を築く時間でもあったと感じています。

Q 支援を受けて助かったこと、良かったことはありますか？

A. 指導料や材料費、製作場所の借用料に加え、事務局や製作補助を担うスタッフの人件費も確保できたことで、個人では実現できない規模の取り組みが可能になりました。事業としての体制を整えられたことは、とても大きかったです。また、公的機関の支援を受けたことで、沖縄芝居が抱える課題が広く共有され、多くの方に関心を持っていただく機会にもなりました。その過程でさまざまなアドバイスをいただき、事業を進めるうえで大きな後押しになったと感じています。

Q これまでの取り組みを終えて、どのような成果が得られたと思いますか？

A. 大道具製作の技術を学んだことで、製作を担うスタッフの意欲が高まりました。また、製作補助をとおして、会員の大道具に対する意識も変化し、これまで以上に丁寧に芝居と向き合う姿勢が生まれました。会員の多くは役者でもあります

が、大道具を主体的に生かした舞台づくりを心がけるようになり、役者とスタッフの連帯も深まったと感じています。さらに、一定規模の予算を管理し、収支予算書や申請書などの書類を作成した経験をとおして、制作や事務のスキルも大きく向上しました。技術面だけでなく、団体運営の基盤強化にもつながったと考えています。

Q 今後の目標や展望を教えてください。

A. 本事業をとおして一定の成果は得られましたが、製作に時間がかかり過ぎることや、製作者の負担が大きいくらいといった課題の解決は、まだ十分とはいえません。今後は、これらの課題に対してさらなる工夫を重ねていきたいと考えています。具体的には、新たな製作人材を探しながら、当会会員が引き続き補助を担い、下準備や工程の見直しなど、手間や時間を軽減する方法を模索していきます。製作場所の確保にも取り組みつつ、可能な範囲で製作や手直しの必要があるものの修復を行うなど、技能伝承の流れを止めないよう努めていきたいと思っています。また、製作物によって画風にばらつきが生じるという新たな課題も見えてきました。これについても製作者とともに検討を重ね、より質の高い舞台美術の実現を目指していきます。



Q 申請当時、どのような課題に
直面していましたか？

A. 県内でも「ひめゆり」を知らない人が増えていることを踏まえ、沖縄戦やひめゆりの歴史を国内外で伝える取り組みを進めてきました。この取り組みをさらに広げるため、2024年に久米島で移動展やワークショップを開催しました。展示会の準備段階において、家庭や学校に残された戦前の文書、手紙、写真などに出会う機会がありました。砲爆撃の被害が少なかった離島には、戦前の資料が残されていることが見えてきました。資料の所有者が新たな発見をしたり、自分と結びつく地域や家族の歴史として沖縄戦をとらえ直す機会となり、離島開催の意義を強く感じました。

Q 申請したいと思ったきっかけは
何ですか？

A. 八重山地域での平和学習は戦争マラリアが主で、沖縄本島の地上戦を知る機会が少ないという現状がありました。戦後80年の節目にあたる2025年、八重山地域でひめゆり学徒隊の戦争体験をとおして、地上戦の実相を伝えることができないかと考えました。当財団は、2019年度より本事業の支援を通じ、ハワイでの初の海外展示や県内移動展・ワークショップ開発などの挑戦を続けてきた経緯があります。これまでの実績と経験を踏まえ、遠隔地である八重山地域においても、より充実した発信が可能になると考え申請に至りました。

Q 補助を受けることで、どのような
取り組みが可能となりましたか？

A. 琉球放送アナウンサーを講師に招いた「朗読ワークショップ」とワークショップ参加者による「朗読会」の開催が実現しました。アウトプットの活動を含むワークショップを実施したことで、参加者同士

が学び合う関係を築き、さらに、参加者が実際に体験者の心情を想像し、どのように表現するかを考える機会となりました。沖縄戦を伝える側になる経験をする中で、主体的、継続的に沖縄戦について学び、伝えていくことが期待される取り組みとなったと考えています。また、展示内容を収録した図録を発行したことで、事業終了後も記録として残る形で成果物を作成することができました。

Q 支援を受けて助かったこと、
良かったことはありますか？

A. 特に、専門家を招聘した「朗読ワークショップ」という新たな試みに挑戦できた点です。那覇から八重山へ外部講師を招く際の渡航費や謝礼は、自己予算での確保が困難でしたが、支援のおかげで資金面の不安なく取り組みを進めることができました。その結果、より厚みのある事業が展開できました。

Q これまでの取り組みを終えて、
どのような成果が得られたと
思いますか？

A. 資料館への来館が難しい八重山地域の方々へ直接ひめゆりの戦争体験を伝

えることができました。八重山出身のひめゆりの生徒に焦点を当てた展示は、来場者が沖縄戦やひめゆりを身近に感じる契機となり、沖縄戦を伝えることの大切さを再認識することにつながりました。ワークショップ参加者が主体的に学び、「伝える側」としての自覚を育んだことや、遺族や家族など関係者との交流、外部団体との協働によるイベント開催、図録の教育現場での活用可能性など、八重山地域でひめゆりの戦争体験や沖縄戦の実相を伝えるという目的において、多面的な成果が得られたと考えています。

Q 今後の目標や展望を
教えてください。

A. 今回の反響を踏まえ、今後も離島を含む県内各地での発信を継続したいと考えています。若い世代が参加しやすいワークショップなど、ひめゆりの戦争体験や沖縄戦の実相を次世代へ伝える手法を引き続き模索していきます。さらに、ハワイでの展示会の経験を生かし、2026年には台湾での展示会の準備を進めており、海外発信の展開も視野に入れながら取り組みを行っています。





- P.27 14 / 一般社団法人 りゅうきゅうかりょうびんが 琉球迎陵頻伽
- P.28 15 / ONEVEX production.
- P.29 16 / 沖縄セメント瓦文化会
- P.30 17 / カラフルコーラスOKINAWA
- P.31 18 / With Art うらそえを考える会
- P.32 19 / あなたの沖縄

#14

琉球横笛演奏の 技術継承および、 魅力の創出と周知事業

一般社団法人 りゅうきゅうかりょうびんが 琉球迦陵頻伽



<https://ryukyukaryobinga.studio.site/>

継承

音楽

体験

事業概要

琉球の伝統楽器である「琉球横笛」の演奏技術の継承をめざす本事業。演奏機会が少ない「端節（ふぁーぶし）」に焦点をあて、琉球横笛に特化した録音物を収録したほか、演奏のための初歩教材・動画教材の作成やワークショップの実施をとおして、演奏者拡大に向けた基盤形成を図った。

取組概要

①琉球横笛に特化した録音物収録

録音会場：イガルーサウンドスタジオ（沖縄市）

演奏者：澤井每里子

監修：大湾清之（国指定重要無形文化財保持者）

②琉球横笛のための初歩教材作成

③ワークショップおよび発表会「はじめての琉球横笛レッスン」

日程：〈Aコース〉11月1日・8日・15日

〈Bコース〉12月4日・11日・25日

〈Cコース〉1月8日・22日・29日

〈Dコース〉1月31日、2月14日・21日

会場：那覇市牧志駅前ほしぞら公民館

講師：澤井每里子

④琉球横笛の魅力を発信する広報活動

上：「端節」のレコーディング
下：はじめての琉球横笛レッスン



POコメント

音楽で人生を変え、広い視野で世界を見渡し、いつしか沖縄の音色と旋律に染まり、琉球横笛の演奏をメインとした活動を展開するようになった代表の澤井每里子さん。沖縄の地で身に付けた文化を、県内外へ広く発信し続けてきました。技術の継承の手段として「指譜」を考案し、気付けば100曲近くの楽譜が出来上がっていたそうです。本事業では「指譜」との併用を目的に動画や音源を製作。体験レッスンでは、受講希望者が定員の2倍以上となりました。受講者から次のステップへのリクエストもありました。今後の発展に目が離せません。（具志）

#15

「沖縄の心を学ぶ」 東京スクール開講プロジェクト —先人から想いを紡ぐ 身体表現の学び—

ONEVEX production.



<https://www.onevexryukyu.work/>

芸能

アイデン
ティティ

体験

事業概要

沖縄の民俗芸能「エイサー」は、教育現場への導入や演舞機会の増加により、県内外で広く親しまれている一方で、その成り立ちや精神性、伝統と創作の違いなど、文化的背景や意義を学ぶ機会には十分でない現状にある。県外における沖縄文化への理解と関心を深めることをめざし、エイサーの背景と意義を共有し、学びにつなげるスクールを東京で開講した。

取組概要

①東京都内でのエイサースクール実施

日程：10月18日・19日、11月22日・23日、12月13日・14日
会場：東京都内

②活動の情報発信

ウェブページ作成やSNSを通じて、エイサースクールや参加者の声について情報を発信

上：エイサースクールで身体を動かす参加者の様子
下：スクール終了後の記念撮影



POコメント

エイサーが好きなお人にとどまらず、学校教員や沖縄出身で関東に暮らす親子、身体を動かしたい人など、多様な目的の参加者が集った本事業。エイサーの由来の共有から始まり、ストレッチや筋トレまで徹底する“ガチ”の内容は受講生を驚かせました。演舞の背景に触れることは、これまでとは異なるエイサーと出会う時間になったのではないかと思います。「沖縄の心」は一つに集約できるものではなく、個々のなかで育まれ続けていくものです。県外でひらいた学び合いの場には、沖縄との新たな関わりの芽が確かに生まれていました。(上地)

#16

消えゆく沖縄のセメント瓦を コンテンツ化し、未来に繋げる

沖縄セメント瓦文化会



<https://gshelter9630.wixsite.com/my-site>

歴史

アイデン
ティティ

記録

事業概要

沖縄独自の風景を構成する重要な要素として「沖縄セメント瓦」を捉え、その文化的価値を広く発信し、新たな文化資源・観光資源としての可能性を探る本事業。セメント瓦の特異性や魅力を伝える映像作品の制作や、有識者を交えたシンポジウムの開催に加え、3Dモデルによるデジタルアーカイブを制作し、メタバース空間での公開にも取り組んだ。

取組概要

①ショートドキュメンタリー制作

制作期間：7月～2月

上映会日程：2月14日

会場：G-shelter大平スタジオ、録画配信

②デジタルアーカイブ化・公開

CAD、3Dのデジタルデータ化、メタバース空間による建築・設計グッズサンプル制作

③沖縄セメント瓦観察者のついで「せめんがーらに惹かれて」

日程：2月14日

会場：G-shelter大平スタジオ

登壇者：名護博物館学芸員 田仲康嗣、

G-shelter黒澤、

臼田克紀(デザイン&クラフトカンパニー)



POコメント

沖縄セメント瓦の文化的価値について調査・記録し、その活用に向けた試みが行われました。独特な意匠の花瓦装飾は、その種類や意味などの記録が少なく、まだ明確ではありません。いち早く意匠を記録し始めた田仲氏はこれまで50種類の図案を蒐集されましたが、今回の共同調査で260種類が見つかりました。さらに増える可能性もあるとのこと。観察者の集いでは、散策の面白さが語られ、これまで気にも留めていなかった意匠を探してみたいと話す人も。愛好家の種がまかれ、今後、引き続き実施される調査で、どのような視点が導かれるか楽しみです。(国永)

#17

障がいによる分断や 子どもの体験格差を改善する 新しい芸術表現【手歌】の 発信事業

カラフルコーラス
OKINAWA



<https://colorful-chorus.com/>

音楽

福祉

多様性
理解

事業概要

カラフルコーラスOKINAWAと音楽家や手話通訳士等がともに、手話をもとに手や表情で歌う芸術的身体表現「手歌」を創造。公共ホール等と連携し、手歌ワークショップを継続的に実施するとともに、「すべての人が参加できる音楽・芸術表現」について考えるシンポジウムを行い、聴覚障害をはじめとする多様な背景に起因する子どもの音楽体験の格差解消に取り組んだ。

取組概要

①手歌ワークショップ「インクルーシブな場所で みんなで一緒に歌おう！」

〈那覇市〉

日程：7月29日 会場：マナブ倶楽部

〈浦添市〉

日程：8月8日 会場：アイム・ユニバースでだこホール 練習室1

〈名護市〉

日程：12月7日 会場：名護中央公民館 小ホール

〈久米島町〉

日程：1月18日 会場：イーフ情報プラザ

②カラフルフェスタ2025

日程：9月14日

シンポジウム登壇者：安里友希、新垣祐歌、大屋あゆみ、小野間昌和、
北野希、手登根雄次、カラフルコーラスOKINAWA

会場：那覇文化芸術劇場なはーと 小劇場



POコメント

インクルーシブな音楽とは何かを考えたとき、逆説的に、これまでの「音楽」には誰が参加できなかったのかを想像しなければなりません。たとえば「ていんさくぬ花」が「手歌」によって新しい解釈で表現が創造されることを全く想像できていませんでした。子ども音楽祭「カラフルフェスタ」には音楽の専門家や愛好家だけでなく、手話通訳士やバラスポーツ指導者、地域の芸能保存会、お笑い芸人までさまざまな人が集まり、これまでになかった人の組み合わせの協働が、音楽の可能性をさらに広げることを、カラフルコーラスの子どもたちは教えてくれました。(小川)

#18

ステップアップ！ With ArtうらそえII

With Art うらそえを考える会



<https://www.facebook.com/people/With-Art-/100093960773092/>

芸術 地域 交流

事業概要

アートを通じて「場」「モノ」「人」を横断的に結び、市民によるアートの街・浦添の創造をめざした本事業。3年目は、開館35周年を迎えた浦添市美術館を活動の場に絞って取り組みを展開した。市内の物故写真家と画家の展覧会を開催したほか、アートマルシェの実施をとおして、地域の関係団体や事業者との連携を深めた。

取組概要

①展覧会「平敷兼七写真展」の開催

日程：8月9日～17日

会場：浦添市美術館 企画展示室3

〈関連イベント〉

「オマージュ・平敷兼七の写真たち」

日程：8月11日 会場：展示室内 ゲスト：上地一也(ライブハウスgroove)

「平敷兼七さんの写真の話をしよう！」ナビゲーター：タイラ・ジュン(写真家)

日程：8月11日 会場：展示室内 ゲスト：大城和喜(元南風原文化センター所長)

日程：8月17日 会場：展示室内 ゲスト：石川竜一(写真家)

②展覧会「井上淳三絵画展」の開催

日程：8月9日～17日

会場：浦添市美術館 企画展示室2

〈関連イベント〉

「井上淳三さんと絵の話をしよう！」ナビゲーター：きんじょう・さとこ(学芸員)

日程：8月9日・16日 会場：展示室内 ゲスト：井上淳三(画家)

③「Artマルシェ 2025」の開催

日程：11月9日

会場：浦添市美術館 外敷地・実習教室

上：展覧会「平敷兼七写真展」トークイベントの様子
下：アートマルシェの様子



POコメント

過去2年間の活動で育まれた多様な人や場所とのつながりが、浦添市美術館で出会い、結びつき、さらに広がっていくような事業でした。展覧会では、企画展示室いっぱいには整然と並ぶ平敷兼七氏と井上淳三氏の作品1つ1つに向き合い、思索を深める静かな時間が流れていました。一方、アートマルシェでは、屋外スペースを活かし、市内外の多彩なアーティストと直接言葉を交わしながら、のびやかに作品に触れられる空間が広がっていました。「浦添市民」としての視点を大切にしながら、人や場所を軽やかにつないでいく姿をとおして、自由に豊かなアートの本質を実感しました。(橋口)

#19

個人的な体験から 沖縄を表現する新たな言葉を 獲得するための市民活動

あなたの沖縄



https://note.com/your_okinawa

ことば 発信 対話

事業概要

「沖縄」について積極的に語ろうとする人が少ないという課題に向き合うため、アーティストと連携して小冊子(ZINE)を制作するワークショップを実施。継続的に、沖縄を表現する新たな言葉をつくり出す場を模索するとともに、トークイベント等を通じて活動を広く周知し、社会課題に関する議論の活性化を図った。

取組概要

①ZINE制作ワークショップ

第0回 「イントロダクション」 ※オンラインで実施、ZINE制作の概要説明

第1回 「視点をひらく」 講師：永井玲衣(作家)

第2回 「考えを深める」 講師：上原沙也加(写真家)

第3回 「表現を工夫する」 講師：兼島拓也(劇作家)

第4回 「ZINE発表会」

日程：9月27日、10月18日、11月15日、12月20日、2月14日

会場：那覇市若狭公民館

②島しょ地域でのワークショップ「写真から言葉をつくるワークショップ」

日程：2月11日

講師：西由良、タイラ

会場：いけむら西薬局(宮古島市)

③トークイベント「他者の声から語りを始める」

日程：9月21日

出演：岸政彦(社会学者)、大白小蟹(漫画家)、西由良(あなたの沖縄 代表)

会場：ひめゆりピースホール(那覇市)

④活動報告&執筆相談会

日程：2月23日

ゲスト：永井玲衣(作家)

会場：桜坂劇場内カフェ



POコメント

ものを書くことや、文章を読むという個人的な営みを、一緒に本をつくるという他者との協働から再考することで、多くの新しい言葉や気づき、出会いが生まれていました。アーティストや作家によるワークショップの密度の高さもさることながら、その前後に設けられた「宿題」、フィードバックのための「お茶会」、アプリ上でのコミュニケーションなど、あなたの沖縄メンバーによるあたたかい丁寧な仕掛けによって、成果物としてのZINEだけでなく、日々の忙しい生活のなかで考え続ける時間をシェアしたプロセスまでもが、価値あるものになっていきました。(小川)

Q 申請当時、どのような課題に直面していましたか？

A. 「With Art うらそえを考える会」は、浦添市内の場・モノ・人をつなげ、大小さまざまな活動を横断的に展開することで、アートによるまちづくりに取り組むことを目的に、1年目の申請時期と同年度に設立しました。スタートアップ枠で支援を受けて3年目となります。設立当初は、スタートのための活動資金が乏しい状況でした。また、1・2年目に多角面で多数の取り組みを試みた結果、新たな課題として「マンパワーの不足」が生じました。

Q 申請したいと思ったきっかけは何ですか？

A. 前身事業として、浦添市職員と浦添市民による「浦添市環境彫刻とパブリックアートを考える会」の活動や、浦添市美術館友の会が主催で開催した展覧会「With Art うらそえ2022 浦添パブリックアート記録と作家展 ー古堅希亜・喜久村徳男・能勢裕子・能勢孝二郎ー」があります。展覧会は、ボランティアや寄付、作家の協力によって実現し、浦添市文化協会との連携や、市内の学校・ギャラリーでパブリックアートを題材とした新しい活動が生まれるなどの効果がありました。この経験から、市民が主体となったアートによるまちづくりの可能性を感じ、団体の設立と、補助金への申請の契機となりました。

Q 補助を受けることで、どのような取り組みが可能となりましたか？

A. 1・2年目は、市内外アーティストの個展や、アートマルシェ、浦添グスクでの野外アートイベントなど、少ない予算のなかで、数多くの実験的な事業を実施することができました。2年間の

活動から見てきたことは、行政の活動が、特定の方法で特定の目的と人に届くものであるとすると、私たちの活動は、行政のルールに乗らない、サービスが届かない一般市民との協同であるということです。双方があってこそ豊かな文化芸術活動であり、地域創造であると思います。これを持続可能なものにするをめざして、3年目は、会場を浦添市美術館に絞り、一つ一つの取り組みの予算や内容を充実させる方針で取り組みました。

Q 支援を受けて助かったこと、良かったことはありますか？

A. 展覧会で必要な消耗品(額内マットなど)を補助金の経費で整えることができましたし、無償ボランティアではなく事業を運営できたことが良かったです。また、今年度から、沖縄アーツカウンシルや沖縄県文化芸術振興会の広報に、イベントの情報が即座に反映されるようになったことも良かったです。

Q これまでの取り組みを終えて、どのような成果が得られたと思いますか？

A. 団体会員同士や周辺の認識の変化が大

きいと思います。できること、やりたいこと、実施の効果など、アート・創造・文化といった掴みどころのない活動の意義が一つ一つ具体化され意識改革となっています。

Q 今後の目標や展望を教えてください。

A. 次年度は補助金に頼らない活動をどのように実施できるのか、模索がはじまります。既に4月にはこの事業で出会ったアーティストの支援として浦添市美術館で個展を開催、9月には浦添沢岬地域の児童センターとの共同で「子どもアマウェーダ展」を美術館で開催します。また、アートマルシェや市内各所とのアートフェアなども継続して開催したいと考えています。





- P.35 20 / 琉球COLLECTION 叶 萬矢叶子
- P.36 21 / SOUVENIR 宮城いつか
- P.37 22 / NSSB 川門義人

20

宮古島の織物の 機織り体験プログラム造成

琉球 COLLECTION 叶
萬矢叶子



https://www.instagram.com/ryukyu_collection_kana/

伝統

工芸

体験

事業概要

連綿と受け継がれてきた技術と工程の奥深さを持つ「宮古上布」をはじめとした宮古島の織物の普及と継続を目的に、島民と観光客を対象にした、はた織り体験プログラムを開発。技術や素材、織り手の想いに触れることで、伝統の継承や認知度向上を図るとともに、織り手の新たな収入源となる可能性も模索し、伝統文化を支える仕組みの構築をめざした。

取組概要

①織り体験事業のリサーチ

日程: 11月15日・16日

訪問先: おりなみ浅草公園前店、アトリエシムラ、TABAYA United Arrows

②織り体験・ブーンミ会の実施(観光客向け)

日程: 9月17日、10月25日

会場: 下地工房

講師: 松尾由樹(染織松尾)、松堂初美(下地工房)、下地悦(下地工房)

③「島のはた織り体験会」の実施(宮古島民向け)

日程: 12月6日

会場: Miyakojima Cultural Salon Zā

講師: 漢那明美(宮古苧麻績み保存会)、松尾由樹(染織松尾)、岩本大輔



POコメント

そよ風に揺れる宮古の織物。その軽やかさと美しさは、幾人もの手と丹念な工程の結実です。苧麻を細く割き、撚り、一本の糸へと紡ぐ所作は目を見張る速さでありながら、なお丁寧で、縦糸と横糸が重なり拵となっていく様に思わず見入ってしまいます。工程の一端に触れる体験のなかでも、島の歴史のなかで培われてきた技と時間に触られる喜びがそこにはありました。多様な世代や立場の人が体験できる場を模索する姿勢は、土地の文化を次代へと手渡していく契機となるでしょう。継承と持続を見据えた実践として、今後どのように広がっていくのか期待しています。(上地)

21

映画でひろく、語り場 in 東村

SOUVENIR 宮城いつか



https://www.instagram.com/souvenir_londonokinawa/

地域

映画

対話

事業概要

映画館のない東村において、映画上映会とTeach-in(トークセッション)を定期的に行うことで、地域住民が多様な価値観や社会的テーマに触れ、対話を深める機会を創出。映画を通じて、世代や立場を超えて「考える・語り合う・つながる」場を地域に生み出すことで、文化的な土壌づくりや次世代育成につなげることをめざした。

取組概要

①上映会 & Teach-inの実施

映画「ファニーズ」

日 程: 7月20日

会 場: 東村文化・スポーツ記念館 ゲスト: 山城智二、やぎのシルー
来場者数: 50名

映画「ちむぐりさ菜の花の沖縄日記」

日 程: 9月20日

会 場: 東村文化・スポーツ記念館 ゲスト: 平良いずみ
来場者数: 50名

映画「AINU PURI」

日 程: 11月15日

会 場: 東村文化・スポーツ記念館 ゲスト: 福永社志
来場者数: 69名

②報告冊子の作成

全3回の上映会 & Teach-inの概要や当日の様子、
来場者の声やアンケート結果などをまとめた冊子を発行・配布



POコメント

上映された、沖縄の変遷や社会課題を扱った3本のドキュメンタリー作品は、いずれも登場人物の日々の営みを細やかに描き、生活者の視点から問いかける作品でした。だからこそ、来場者の経験や記憶と自然に結びつき、自発的に言葉が生まれるような対話の場が育まれていたように感じます。また、東村の住民が司会を務めたり、地元飲食店と連携してお弁当販売を行ったりと、地域の人々が主体的に関われるひろかれた場づくりにも取り組まれていました。制作された冊子には、当日交わされた言葉やアンケートの声、運営側の振り返りまで丁寧に記録されており、東村で持続的に場を育むための大切な一歩となる事業でした。(橋口)

22

地域子ども達と描く ～ミーカガン玉城保太郎が 現代に蘇る～

NSSB 川門義人



<https://www.instagram.com/nssb.okinawa>

地域

教育

アイデンティティ

事業概要

糸満の海人で、ミーカガンを考案したことで知られる玉城保太郎の存在を若年層に向けて広く周知するため、地元子どもたちと協働して紙芝居を制作し、糸満のしまくとぅば朗読会を開催した。紙芝居は糸満市内の保育園、児童クラブや糸満市の子ども居場所等に配布したほか、パネル化して市内施設で披露することで、地域住民のアイデンティティや郷土愛の醸成につながった。

取組概要

①紙芝居制作ワークショップ

ミーカガンの発明者「玉城保太郎」の紙芝居用イラストの制作

- 日程：8月8日 糸満の海と保太郎を描こう
8月9日 保太郎の発明品を描こう
8月14日 人助けをする保太郎を描こう
8月15日 家族思いの保太郎を描こう
8月16日 保太郎の思いの詰まった紙芝居を仕上げよう

会場：糸満市場いとま～る

参加者：糸満市内の未就学児～中学生

参加者数：50人

②紙芝居パネル掲示式・しまくとぅば朗読会

日程：11月8日

会場：糸満市場いとま～る屋内場クジラ前

出演者：紙芝居制作ワークショップに参加した子どもたち

来場者数：約100人



POコメント

子どもが地域への愛着を育むきっかけとして、糸満出身でミーカガン考案者である玉城保太郎の紙芝居制作と、しまくとぅば朗読会に取り組みました。参加した、絵を描くことが好きな子どもたちは、場面を表現するために玉城保太郎の生い立ちを学び、想像を膨らませながら作品を完成させたことが自信につながったようです。沖縄の海洋文化を象徴する彼の人生は、子どもの探求心を刺激し、多角的な視点やアイデアを広げる可能性を秘めています。ここからの検証と探求が、よりよい取り組みへとつながっていくことを期待しています。(国永)

Q 申請当時、どのような課題に直面していましたか？

A. 東村文化・スポーツ記念館で持ち込み上映会の企画や、実験的な上映会& Teach-inを開催したなかで、映画を観たあとの何気ない一言や対話が、人と人との距離をゆるやかに縮めていく場面を目にしてきました。その時間を一過性のものにせず、地域に継続的な取り組みとして定着させていきたいと考えていましたが、上映料や登壇者への謝金を十分に確保できない状況にも直面し、「続けたい」という気持ちと現実的な運営との間で、持続可能な形を模索していました。

Q 申請したいと思ったきっかけは何ですか？

A. 申請を考える大きなきっかけは、2024年度に採択された内間直子さんの事業に、運営サポートとして関わらせていただいた経験でした。企画の立ち上げから予算組み、事業全体の段取りに至るまでを間近で学ぶ機会を得ました。一方で、東村文化・スポーツ記念館の限られた予算のなかでは、上映会や Teach-in を継続していくことの難しさも実感していました。持続可能な形を模索する一歩として、個人事業主として「チャレンジしてみよう」と思ったことが、今回の申請につながりました。

Q 補助を受けることで、どのような取り組みが可能となりましたか？

A. 上映料やゲスト謝金を適正に支払えることで、作品や登壇者への敬意を担保した上映会の実施が可能となりました。また、地域の若年層を運営スタッフとして迎えることで、準備や運営のプロセスを共有しながら、世代を越えた関わりや人材育成にもつながる取り組みを行うことができました。さらに、記録冊子の制作

に取り組むことで、映画を「観る」だけで終わらず、対話の時間やそこで生まれた気づきを言語化して振り返ることができました。

Q 支援を受けて助かったこと、良かったことはありますか？

A. 経済的な支援を受けたことで、企画運営に伴う負担が軽減され、内容の充実により注力することができました。また、事業期間をとおしてPOの皆さまに相談できる体制があったことで、安心して取り組むことができた点も非常に大きかったです。資金面だけでなく、伴走的なサポートを受けられたことに心より感謝しています。

Q これまでの取り組みを終えて、どのような成果が得られたと思いますか？

A. 上映後の Teach-in では、年齢や立場の異なる参加者が、それぞれの言葉で映画について語り合う姿が見られ、映画を通じて対話のきっかけとなる場をつくれることを実感しました。作品と東村の風景や出来事が重なり合うことで、地域をあらためて見つめ直す視点

が共有された点も大きな成果です。現時点では未確定ですが、本事業の取り組みを受けて、上映会および Teach-in を継続的に実施できるよう、東村文化・スポーツ記念館としての次年度に向けた予算化について教育委員会内で検討が進められており、事業の継続性に向けた具体的な動きが生まれています。

Q 今後の目標や展望を教えてください。

A. 今後は、上映会と Teach-in を年に数回継続しながら、定期的な上映のみの会も重ねていきたいと考えています。映画を通じた対話の場を地域に根づかせ、将来的には「映画上映会といえば東村」と自然に思い出してもらえるような場となることを目標に、地域や教育分野とも連携しながら取り組みを広げていきたいです。あわせて、若い世代の参加を促す工夫や、地域住民自身が作品やテーマを選ぶ動きへとつながるような土壌づくりにも挑戦していきます。





ぶんかとはほじょきんそうだん会

沖縄県内で文化芸術に関わる活動をしている方を対象に、プログラムオフィサーによる相談機会の提供に取り組みました。補助金のしくみや申請書の書き方など基本的なことから、助成プログラムの各種ご案内、日ごろの活動のお悩み相談まで、文化芸術に関する幅広い内容のお話を専門スタッフがうかがえます。毎月20日、定期開催しています。

令和7年度相談件数

147件

(令和8年2月現在)



沖縄文化芸術の創造発信支援事業 採択件数・補助金額

()は継続事業数

	団体	応募総数	採択件数	採択率	補助確定額
令和4年度	団体	25	9	36.0%	29,056,000円
	スタートアップ	6	4	66.7%	3,451,000円
	個人事業主	23	9	39.1%	7,387,000円
令和5年度	団体	26	9(6)	34.6%	25,658,000円
	スタートアップ	5	5(1)	100%	3,753,000円
	個人事業主	14	7	50%	6,021,000円
令和6年度	団体	41	13(3)	31.7%	35,366,000円
	スタートアップ	13	4(1)	30.7%	2,656,000円
	個人事業主	12	6	50%	5,161,000円
令和7年度	団体	31	13(5)	41.9%	32,795,000円(交付予定額)
	スタートアップ	8	6(2)	75%	4,869,000円(交付予定額)
	個人事業主	7	3	42.8%	2,331,000円(交付予定額)

公募による採択件数・補助金額等

平成29年度～令和6年度までの補助事業で実施した

文化芸術活動数
2,112件
(令和6年度/162件)

文化芸術活動
享受者数
373,241人[※]
(令和6年度/15,092人)

異分野連携活動数
1,179件
(令和6年度/167件)

異分野連携事業者数
931件
(令和6年度/116件)

※ただし、数万人が来場する大規模イベントのブース参加のうち、実数が抽出できないものは割愛



令和7年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 担い手育成プログラム「めぐるプロジェクト」



イラストレーター：彦五郎

文化芸術・アートの分野では、「自分の感じ方」=主観が、活動・創作の出発点になります。自分の内側を深く見詰め紐解いていくことで、ときに誰かの気持ちや経験と重なる瞬間があり、そこに共感が生まれ、豊かな関係性が育まれていきます。「めぐるプロジェクト」は、沖縄の多様な人や場所との出会いをとおして、参加者一人ひとりが思考をめぐらせ、感じたことを自分なりの視点や表現につなげるための出発点を探しにいく体験プロジェクトです。

参加者



安里寿美
写真家



石川舞
イラストレーター・画家



ピンク
画家・愛豚家



邊土名俊毅
俳優・劇作家志望(学生)



宮城葉月
画家・コミュニティマネージャー

0 事前オリエンテーション

日程：9月8日

会場：指定介護老人福祉施設「嬉の里」
うれしの

詳しい
レポートは
こちら▶



5名の参加者が指定介護老人福祉施設「嬉の里」に集まり、オリエンテーションを行いました。嬉の里は地域に開かれたカフェや学生作品の展示があり、入居者が心豊かに過ごせるよう工夫された施設です。当日は職員の案内のもと、参加者が入居者の暮らしや施設の取り組みに触れ、それぞれの視点で思索を深めました。ここは最終発表の会場でもあり、プロジェクトの始まりと終わりをつなぐ場所です。

1 芸をめぐる #継承 #伝統 #型 #表現 #五番

日程:9月18日 会場:国立劇場おきなわ
話し手:嘉数道彦(琉球芸能実演家)

詳しい
レポートは
こちら▶



参加者は国立劇場おきなわを訪れ、琉球芸能実演家・嘉数道彦さんの講話と組踊鑑賞をとおして、沖縄の伝統芸能の魅力と創作の現場に触れました。嘉数さんからは、継承と創作の両面で挑戦を続ける実演家としての姿勢が語られ、参加者は自身の表現活動と重ね合わせながら理解を深めていきました。鑑賞後の意見交換では、実演家の芸能に対する思い、所作や演出の美しさなどが語り合われ、組踊が生まれた時代背景へ思いを寄せるなど、それぞれが思考をめぐらせているようでした。



2 心をめぐる #解離性障害 #ギャンブル依存症 #不眠 #地域 #暮らし

日程:10月4日 会場:那覇市地域活動支援センター ソーシャルハウスあごら
話し手:兼浜克弥・中村謙太・中村夏実・里壘樹(NPO法人あごらびあ)
ワークショップファシリテーター:島袋寛之・ナツコ・与那嶺圭一(TEAM SPOT JUMBLE)

詳しい
レポートは
こちら▶



那覇市の「ソーシャルハウスあごら」を会場に、精神疾患を抱える当事者の声を聴き、その体験を演劇で表現するワークショップを実施しました。TEAM SPOT JUMBLEの俳優による進行のもと、参加者は当事者へのインタビューを経て短い芝居を創作。ギャンブル依存症や解離性障害をめぐる率直な語りに触れ、構成を話し合いながら組み立てていきます。演じる過程では、多様な経験を追体験し、気持ちの変化や自身の中にあつた思い込みに気づくなど、これまでの知識や固定概念と向き合い、自身を内省する時間となりました。



3 島をめぐる #人口 #開発 #クロワッサンアイランド #休校 #日記

日程:10月18日・19日 場所:国頭郡本部町水納島
話し手:湧川祥・仲地光雄

詳しい
レポートは
こちら▶



前半



後半

参加者は水納島に1泊2日で滞在し、島の自然や暮らし、歴史、そしてリゾート開発を目にした現状に触れながら思考を深めました。島の住民である湧川さん、仲地さんとの交流をはじめ、休校中の学校、静かなビーチ、満天の星空など、観光では見えにくい「島の暮らし」を体感しました。命をいただく「食」の体験や、島の未来についての対話をおとして、自然と人、文化と開発が交差する水納島のリアルに向き合う時間となりました。旅で得た気づきは、その後の創作へとつながっていきます。



4 「 」をめぐる

日 程：11月10日

会 場：指定介護老人福祉施設「嬉の里」

詳しい
レポートは
こちら▶



参加者5名がこれまでの3企画で得た経験や思考をもとに、それぞれの表現方法で成果を発表しました。会場は初回と同じ「嬉の里」。写真・映像・絵画・立体・戯曲など多様な作品が並び、参加者は自身の内面や出会った人々、沖縄の文化や島での体験を作品として形にしました。鑑賞後の対話では、互いの視点や制作過程に刺激を受けたことや、新たな気づきが語られ、創作の可能性が広がる時間となりました。



参加者の感想と企画の背景を
ホームページにて公開中

参加者コメント



企画背景コメント



誰もが尊重される創作環境とは？

「インティマシーシーン」から考え合うレクチャー&ワークショップ

日 程：10月22日 会 場：ともかぜ振興会館 研修室1~3

講 師：浅田智穂

詳しいレポートはこちら▶



映画・演劇の現場で俳優の安全と表現の質を守る「インティマシーコーディネーター」。日本において先駆者である浅田智穂さんを迎え、沖縄初となるレクチャー&ワークショップが開催されました。浅田さんは、国内外の事例や導入の背景、俳優・監督双方を支える役割について紹介。権力構造の偏りや曖昧な台本表記が生む課題、同意確認の重要性など、現場が抱える問題を丁寧に解説しました。後半のワークショップでは「断る／断られる」を体験し、意思表示の難しさを実感。質疑応答も活発に行われ、安心安全な創作環境への関心と期待の高まりが感じられる機会となりました。



令和7年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 文化芸術人材バンク事業



<http://db.shimacul.okinawa>

沖縄県文化芸術名鑑

沖縄県内で活動するアーティストやクリエイターの方々取材、記録し、ウェブサイト等を通じて、より多くの人々に周知、発信するためのデータベースづくりに取り組みました。今年度は戦後80年の節目にあたって、アーカイブをテーマに、沖縄文化芸術のこれまでのあゆみを学び、記録することを試みました。



＼ 令和7年度に公開したインタビュー記事 /

中田耕平
(読谷村史編集室、アーキビスト)

崎山律子
(那覇市文化協会会長、フリージャーナリスト、フリーアナウンサー)

新城喜一
(画家、舞台美術家)



沖縄アーツカウンシル“YUNTAKU”フォーラム 「次世代が取り組む『伝統』のかたち～芸能の記録と、地域との関係づくり～」

戦前から大切に受け継がれてきた沖縄の伝統芸能を、どのように次世代に継承していくかを議論するため、芸能実演家や研究者をゲストに招き、トークイベントを行いました。



日時 2026年1月29日 18:30～20:30

場所 那覇市第一牧志公設市場 3階多目的室

登壇者 伊良波さゆき(沖縄芝居研究会 代表)
波平直毅(金丸獅子 代表)
遠藤美奈(沖縄県立芸術大学准教授)

出店協力 琉球菓子とお茶koti





編集後記

文化芸術は、ときに心を揺さぶり、問いを投げかけ、生きる上での拠りどころとなるものです。同時に、これまで気にもとめなかった他者の存在や異なる価値観に目を向ける契機ともなりうるものです。その経験やまなざしをつくっていくことは、複雑さが増す時代において、いっそう大切になっているように思います。本事例集で紹介している各現場の試みには、これからを考える上での学びと希望が息づいています。

そうした文化芸術事業に携わる方々やアドバイザーボードと言葉を交わし、学び合う時間は、私自身をかたちづくる大切な時間でした。限られた事業期間のなかで対話を十分に育みきれないもどかしさや、立場の違いから距離が生まれてしまったこともあります。それでも、互いに言葉を積み重ねることからしか、次の一手は見えてこないのだと思います。現場と制度が分かちがたく結びつき、揺れながらも支え合うなかで、多様な関わりや価値観が少しずつかたちになっていく。その積み重ねが、文化芸術振興の土壌となっていくのだと感じています。

文化芸術に携わる一人として、80年前に戦禍に見舞われたこの土地で、なお継承と創造を重ねてきた営みの延長線上に立っていることを忘れずにいたい。まもなく15年目を迎える沖縄アーツカウンシルですが、これまでの歩みと関係性を礎に、まだ見ぬ風景や表現、価値観に出会う場をつくる役割を担う存在でありたいと思います。

チーフプログラムオフィサー
上地里佳

令和7年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業 支援事業事例集

OKINAWA ARTS COUNCIL 2025 » 2026

発行日 令和8(2026)年3月

発行者 沖縄県

編集・執筆 沖縄アーツカウンシル(公益財団法人沖縄県文化芸術振興会)

上地里佳/具志幸大/小川恵祐/橋口知佳子/

喜舎場梓/国永美智子/奥間恵/古俣快唯

キービジュアル MODAN(村山盛康)

デザイン 久高美保



公益財団法人 沖縄県文化芸術振興会

OKINAWA ARTS COUNCIL

公益財団法人沖縄県文化芸術振興会 沖縄アーツカウンシル
〒901-0152

沖縄県那覇市字小禄1831-1 沖縄産業支援センター6階 605号室

TEL 098-987-0926 FAX 098-987-0928

<https://www.okicul-pr.jp/oac/>



Web



Facebook



Instagram



OKINAWA ARTS COUNCIL